

# 都市再生整備計画(第6回変更)

てがらやまちゅうおうこうえんしゅうへんちく  
手柄山中央公園周辺地区

ひょうごけん ひめじし  
兵庫県 姫路市

令和6年2月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業	□
まちなかウォークアブル推進事業	□

目標及び計画期間

都道府県名	兵庫県	市町村名	姫路市	地区名	手柄山中央公園周辺地区	面積	23.7	ha							
計画期間	平成	30	年度	～	令和	6	年度	交付期間	令和	1	年度	～	令和	6	年度

目標

大目標:安全・安心でにぎわいある手柄のまちづくり

目標1:緑豊かで誰もが安全、安心して暮らせるまちづくり

目標2:スポーツを活かした市民交流のまちづくり

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。  
 本市では、姫路駅を中心に各種交通機関や商業・業務機能が集中し、播磨地域における社会経済活動の中心地として発展してきた。しかしながら、モータリゼーションの進展等を背景とした市街地の拡大、少子高齢化に伴う人口減少等を背景に中心市街地の空洞化が進み、都市のにぎわいが低下している。こうしたことから、中心市街地において、公共が保有する低未利用地を活用して、文化交流施設や病院等の整備を行うほか、手柄山中央公園の再整備など老朽化した公共施設の更新を行いながら、まちの魅力を上向き、にぎわい向上による、さらなる商業機能の集積など、都市機能の拡散防止と公共・公益サービスの機能の維持を図る。  
 一方、既存市街地外縁部の住宅地では、人口減少、居住者の高齢化が顕著であり、エリア毎に人口密度を維持し、経済力の維持・強化や地域コミュニティの維持・活性化を図る必要がある。このため、公共交通(駅・バス停)を拠点として、都心部や地域生活圏とのネットワークの充実を図りながら、ものづくり力の維持・強化につながる労働人口の増加に取り組みとともに、歩行者空間の確保や若者の転出超過の解消、子育てしやすい環境づくり、元氣な高齢者の増加に取り組み。  
 公的不動産の活用策として、郊外移転した鉄道車両基地跡地を活用して、民間病院と統合した新たな県立病院や文化交流施設の整備を図り、当該文化交流施設の移転後に公園施設を整備するなど、中心市街地内部で移転建て替えを順次玉突きに実施することで、都市機能の拡散防止と公共不動産の有効活用を図る。

まちづくりの経緯及び現況

【経緯】

- ・本地区は、中心市街地南西部に位置するものの、手柄山中央公園(総合公園)を中心とした緑豊かな景観を形成し、都心部における貴重な憩いの空間としての役割を果たしてきた。
- ・地区の中心に位置する手柄山中央公園において、昭和41年に開催した姫路大博覧会を契機に、周辺の道路、公園施設等の都市基盤の整備が進み、それに伴い商業施設の進出や宅地化が進行してきた。
- ・道路網として、地区の北側には、(都)延末線が東西方向に、中央部には(都)手柄山線が東西方向に、西側には(都)中央南北幹線が南北方向に整備され、広域的な自動車交通の連携に資している。
- ・公共交通として、地区外に山陽電鉄手柄駅が近傍しているが、道路の整備が進んでいることもあり、本地区へのアクセスは、自動車交通が主流となっている。
- ・公園内には、スポーツの拠点として、姫路球場、中央体育館、陸上競技場、多目的広場(サブトラック)、平和学習の拠点として、太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔、平和資料館を備えるとともに、回転展望台、水族館、緑の相談所、温室植物園など多種多様な公園施設が集積し、本市におけるスポーツ・文化の中心的な役割を担ってきた。

【現況】

- ・道路、公園等の都市施設は、整備から数十年が経過して老朽化していることや、社会情勢の変化、市民ニーズの多様化、高度化などにより、地区の魅力が低下し、まちのにぎわいに陰りが見えはじめてきた。
- ・まちのにぎわい再生のため、手柄山中央公園を緑の拠点、スポーツの拠点として再整備することが求められている(立地適正化計画、手柄山中央公園整備基本計画)。
- ・本地区北側には、JR姫路・英賀保駅間新駅の設置が予定されており、先導的なまちづくりと公共交通を活かしたまちづくりへの機運が高まっている。
- ・本地区中央部分には、(都)手柄山線が東西に貫く形で整備されているが、広幅員である道路が、地区を南北に分断することとなり、人の往来を阻害している。
- ・県立武道館において、東京オリンピック、パラリンピックにおけるフランス柔道代表の事前合宿地として決定したことを契機に市民のスポーツへの関心が高まっており、本市におけるスポーツの拠点にふさわしい、利用環境の整備が必要である。
- ・本市野球競技の拠点である姫路球場は、近年の熱中症対策など夜間における利活用の促進が求められている。加えて、JR姫路・英賀保間新駅の整備によるアクセス強化により、「みるスポーツ」にも対応した施設の充実が求められている。

課題

- ・施設の老朽化や社会情勢の変化、市民ニーズの多様化、高度化などにより、地区の魅力、まちのにぎわいが低下している。
- ・山陽電鉄手柄駅から本地区への玄関口と位置づけている公園の一部が未供用であるため、公共交通からヒト呼び込むための動線が不明瞭で、まちのにぎわいの障害になっている。また、公共交通における来訪者が少ない。
- ・市の代表的な運動施設(姫路球場、中央体育館、陸上競技場、多目的広場[サブトラック])が集積するが、(都)手柄山線が歩行者交通を分離し、施設間の連携を阻害するとともにバリアフリーに未対応である。このため、イベント時には交通混乱を来し、安全・快適な歩行者空間が確保されていない。
- ・本格的な運動施設が集積するが、気軽にスポーツを楽しむことができる広場がない。
- ・(都)手柄山線歩道は、幅員が狭く、また、老朽化が著しいことから公園との調和が図れていない。
- ・姫路球場は、ナイター施設がないため夜間利用のニーズに対応できていない。また、スコアボードは老朽化が著しく、運営に支障が生じている。

将来ビジョン(中長期)

- 姫路市総合計画(H21.3)・・・本地区の中心である手柄山中央公園は「自然豊かで快適な環境・利便都市」という基本目標を実現するための施策として、「都心部近郊にある緑とスポーツの拠点」として整備すると位置づけている。
- 姫路市都市計画マスタープラン(H27.3)・・・手柄山中央公園は、本市の緑の拠点であり、スポーツ及びレクリエーションの場として利用環境の向上を図ることとしている。
- 姫路市総合交通計画(H28.3)・・・公共交通サービスの維持・向上、環境への対応のため、公共交通の利用者数を増加させることとしている。
- 姫路市立地適正化計画(H30.3)・・・本地区は立地適正化計画による都市機能誘導区域の中心拠点であり、中心市街地活性化の施策として、手柄山中央公園の再整備を行うこととしている。
- 姫路市緑の基本計画(H24.3)・・・手柄山中央公園は、本市の「核となる緑」として位置づけられており、スポーツ拠点や広域防災拠点として整備を進める。
- 姫路市地域防災計画(H29.10)・・・手柄山中央公園は、広域防災拠点として、大規模災害時における中播磨地域全体の救援・救護、復旧活動等の拠点として位置づけている。
- 広域連携・・・2市2町(姫路市、たつの市、太子町、福崎町)による「中播磨圏域の立地適正化の方針」(H29.3)において、総合公園である手柄山中央公園は、スポーツ施設等の都市機能の役割に位置づけている。
- 手柄山中央公園整備基本計画(H29.1)・・・平成28年度に策定し、令和7年度までを前期、それ以降を後期とし、前期においては、スポーツ施設の統廃合や改修による本市のスポーツ拠点としての充実させるとともに、新駅構想による公共交通機関の充実と駅前広場の整備等による集客力の向上などにより、本地区の賑わいを創出し、地域の活性化を図ることとしている。また、後期においては、公園施設の再配置・改修を行い、さらなる賑わいの創出と地域の活性化を図ることとしている。
- 手柄山スポーツ施設整備基本計画(H31.3)・・・手柄山中央公園整備基本計画に基づき、スポーツ施設の整備について、本市スポーツの拠点に相応しい施設を目指して、施設の整備方針、構成、想定規模等を策定し、スポーツを通じて市民交流の活性化を図ることとしている。

都市構造再編集集中支援事業の計画 ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

- ・中心市街地は、本市が歴史的に播磨地域の中心都市であった経緯から、鉄道駅やバスターミナルといった公共交通の結節機能、百貨店や商店街、企業の支店等を中心とした経済機能、市民会館や駅前市役所等の公共公益機能をもとより有しているところであるが、まちの賑わい及び感動の創出並びに地域経済の活性化に寄与するため、文化交流機能の充実を図る。
- ・既存市街地外縁部については、人口減少、高齢化の傾向が顕著な地域であるため、ものづくり力の維持・強化につながる労働人口の増加に積極的に取り組むとともに、歩行者空間の確保や若者の転出超過の解消、子育てしやすい環境づくり、元気な高齢者の増加に取り組むことにより経済力の維持・強化や地域コミュニティの維持・活性化を図る。
- ・郊外部については、自然環境との調和や居住環境の保全、地域資源や既存の都市施設を活かした土地利用を図る。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

目標を定量化する指標

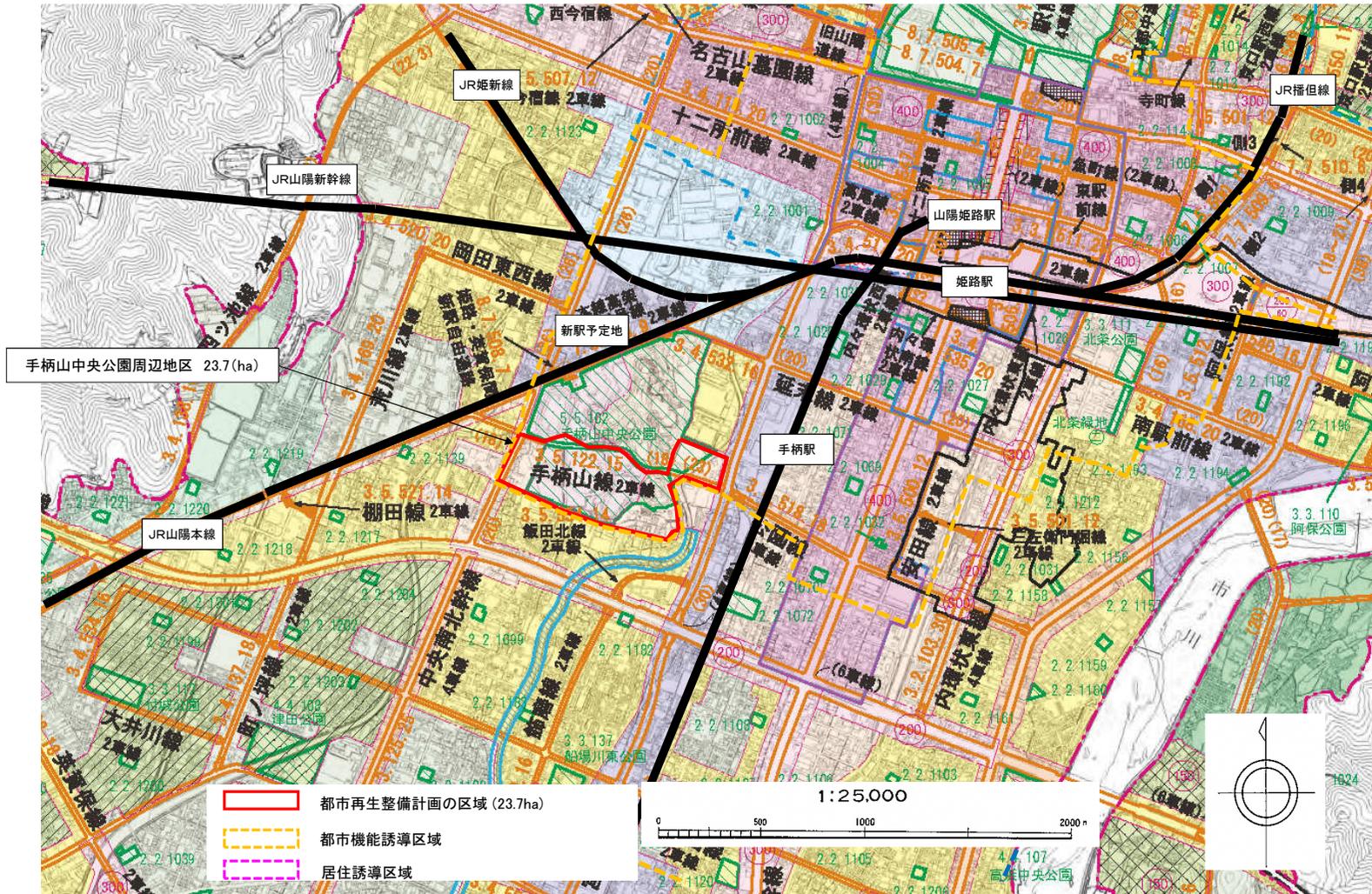
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
鉄道(山陽電鉄)による公園利用者の増加	%	公園利用者を対象とした対面式でのアンケート調査における交通手段において、山陽電鉄と回答した割合	地区の魅力向上や交通利便性の向上による地域のにぎわい効果の波及として、鉄道利用者(山陽電鉄)による公園利用者の増加を目指す。	3.7	H26	4.7	R6
歩行者の所要時間の短縮	分	中央体育館と姫路球場間の移動所要時間を調査	(都)手柄山線により南北交通が分断されているが、連絡通路橋の整備による施設間の連携強化への波及として、施設間の移動時間の短縮を図る。	3.5	H30	2.0	R6
公園利用者の増加	人/年	手柄山中央公園全体の利用者数を調査(閉鎖予定の文化センター、手柄山遊園を除く)	地区の魅力向上や交通利便性の向上による地域のにぎわい効果の波及として、公園利用者数の増加を目指す。	1,192,779	H28	1,260,300	R6

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>【整備方針1 緑豊かで誰もが安全、安心して暮らせるまちづくり】</p> <p>◎本地区は都心部であるものの、手柄山中央公園を中心とした緑ゆたかな情緒あふれる雰囲気を形成しており、既存の施設を活用しながら、誰もが安全、安心して利用できる都市基盤の整備を行う。</p> <p>◇公共交通からの本地区へのアクセスとして、東の玄関口と位置づけるエントランスゾーンにおいて、山陽電鉄手柄駅から本地区へのいざないの空間を創出する。質の高い園路、緑化等の整備を行い、何度も訪れたい魅力のある空間づくりを行う。また、来訪者の快適な街歩きツールとして、地域の観光情報を伝える情報板の整備を行い、地区全体のにぎわいにつなげていく。</p> <p>◇施設の整備にあたっては、年齢や障害の有無などにかかわらず、より多くの人が安全・安心して利用できるよう、ユニバーサルデザイン化を推進する。</p> <p>◇地区内における安全・快適な歩行者空間の確保のため、移動の中心地点である、姫路中央体育館前交差点において、連絡通路橋の整備を行い、自動車と歩行者交通の分離を行う。また、天候に左右されずに高齢者、障害者をはじめ、誰もが快適に移動できるようシェルター、エレベーターの整備を行い、ハイセンスで居心地が良く、歩きたくなるまちなかづくりにつなげていく。</p> <p>◇公園内を横断する(都)手柄山線の歩道は、公園と一体となった質の高い歩行空間として整備を行い、公園と調和した、誰もが自然と歩きたくなくなるような魅力的な街並みを実現する。</p>	<p>公園：手柄山中央公園東エントランスゾーン整備事業                      地域生活基盤施設：ペDESTリアンデッキ整備事業(人工地盤)                      地域生活基盤施設：情報板整備事業(情報板)                      高質空間形成施設：高質歩行空間整備事業</p>
<p>【整備方針2 スポーツを活かした市民交流のまちづくり】</p> <p>◎本地区の中心に位置する手柄山中央公園は、本市における代表的な運動施設を集積しており、スポーツの拠点にふさわしい利用環境の整備を行う。</p> <p>◇大規模運動施設である姫路球場、中央体育館、陸上競技場、多目的広場(サブトラック)を接続する連絡通路橋を整備し、移動の円滑化による施設の連携強化を図ると共に、イベント時における大人数の安全で円滑な移動空間を確保し、市民交流を促進する。また、東京オリンピック、パラリンピック効果による、スポーツ機運の高まりを受け、高齢者、障害者においても気軽にスポーツに参加できる環境づくりが求められていることから、連絡通路にシェルター、エレベーターの整備を行う。</p> <p>◇誰もが気軽にスポーツを楽しむ、交流することができる広場として、東エントランスゾーンに多目的広場の整備を行う。</p> <p>◇手柄山中央公園内にスケートボード、BMX等の競技施設としてスポーツパークの整備を行っており、今後、多くの若者の来場が見込まれることから、最寄り駅である山陽電鉄手柄駅からスムーズにアクセスできるよう、東エントランスゾーンに園路、情報板の整備を行い、スポーツ交流を促進する。</p> <p>◇県立武道館においては、東京オリンピック、パラリンピックにおけるフランス柔道代表の事前合宿地として決定しており、今後、選手団、関係者、観光客等の来場が見込まれることから、本地区の観光情報を伝える多言語情報板を整備し、観光の促進を図る。</p> <p>◇本市野球競技の拠点である姫路球場は、従来からの「するスポーツ」「ささえる(育てる)スポーツ」に加え、トップアスリートによる試合や大規模な大会を間近で観戦できる「みるスポーツ」に対応させるため、ナイター照明設備、スコアボードを整備し、更なる利活用を促進する。</p>	<p>公園：手柄山中央公園東エントランスゾーン整備事業                      公園：姫路球場ナイター照明等整備事業                      地域生活基盤施設：ペDESTリアンデッキ整備事業(人工地盤)                      地域生活基盤施設：情報板整備事業(情報板)</p>
<p>その他</p>	



<p>手柄山中央公園周辺地区(兵庫県姫路市)</p>	<p>面積 23.7 ha</p>	<p>区域 飯田の一部、中地の一部、手柄の一部、西延末の一部、延末の一部</p>
----------------------------	-------------------	--

※ 計画区域が分かるような図面を添付すること。



手柄山中央公園周辺地区(兵庫県姫路市) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	安全・安心でにぎわいある手柄のまちづくり ・緑豊かで誰もが安全、安心して暮らせるまちづくり ・スポーツを活かした市民交流のまちづくり	代表的な指標	1 鉄道(山陽電鉄)による公園利用者の増加 ( % )	3.7	(H26年度)	→	4.7	(R6年度)
			2 歩行者の所要時間の短縮 ( 分 )	3.5	(H30年度)	→	2.0	(R6年度)
			3 公園利用者の増加 (人/年)	1,192,779	(H28年度)	→	1,260,300	(R6年度)

